

令和2年度 学校だより



双葉のいのち

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/baba/>

令和2年5月29日
横浜市立馬場小学校
校長 町田 大樹

第3号

馬場小リスタートプログラムで安心・安全な教育活動の再開を目指します

4月6日の入学式、7日の始業式後から始まった市一斉臨時休業は54日間にわたりました。いよいよ学校の再開となります。保護者の皆様にはお子さんの健康観察や学習課題の支援等、臨時休業中のご家庭での対応に心より感謝申し上げます。

子どもたちの登校を心待ちにしていました。学校はそこに子どもがいて、はじめて「学校」になります。校舎や校庭に子どもたちの笑顔が戻ってくること大きな喜びを感じています。しかしながら、新型コロナウイルスの新規感染者数が減ったとはいえ、未だ出口が見えない中での再開となります。馬場小では6月からの取組を「馬場小リスタートプログラム」として、感染防止対策をしっかりと講じながら、三期に分けてスムーズな再開を目指していきます。

一期については隔日登校とします。学級内の人数を半数にし、消毒等の衛生対策、活動の制限や距離を離れた座席配置、カリキュラムや授業スタイルの変更等の感染防止対策を講じた上で、子どもたちが安心して学校の生活リズムに慣れたり、担任やクラスメイトとの人間関係を築いたりできるように取り組んでいきます。コロナウイルスに関連するいじめ防止対策や人権教育にも取り組みます。その後、徐々に学級づくりを進め、学習も本格化させていきます。

馬場小リスタートプログラムの主な取組	
一期（6/1～12） ・学級を2分割し、分散登校 ・午前授業	○子どもの安心・安全をつくる。学校生活のリズムをつくる期間 ・30分授業による学習リズムの定着 ・安心・安全な過ごし方の指導、衛生面に配慮した教育環境 ・学習状況や心のようすの把握 ・担任、学級児童との関係づくり
二期（6/15～30） ・一斉で毎日登校 ・午前授業	○学級づくり、学習の本格化に向けて取り組む期間 ・学級づくり ・未履修分野から新学年の学習へ ・個人面談の実施
三期（7/1～） ・給食開始 ・午後まで授業	○通常通りの教育活動を行う期間 ・衛生面の指導 ・行事の精選と感染防止策を講じた中での実施
※感染状況によって、期間が変更になる可能性があります。その場合は、改めてお知らせします。	

休業期間が長引いたことで、様々な気持ちのお子さんがあることと思います。学校が始まるのを楽しみにしている子、不安や心配を感じている子、きっと生活リズムも様々でしょう。まずは、子どもたちの気持ちを受けとめ、子どもたちが安心して登校できるようにしていきたいと思います。「学校が楽しい」「先生・友達に会いたい」という環境を丁寧に整えていきたいと思います。

今後も、状況によって様々な変更をお願いすることもあるかと思えます。情報発信も行ってまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

安全・安心な学校生活再開のために

馬場小 リスタート プログラム

久しぶり…1年生はほぼ初めて…の学校生活

無理のない分散登校でリスタート

第1期 日課表

時刻	活動
8:05～ 8:15	1～3年登校
8:15～ 8:25	4～6年登校
8:30～ 9:00	1時間目
9:05～ 9:35	2時間目
9:40～10:10	3時間目
10:15～10:45	4時間目
10:50～11:20	5時間目
11:25～11:55	6時間目*
11:55～12:05	1～3年下校*
12:05～12:15	4～6年下校*

*6月1・2日はさらに早めに下校

時差登下校で
“密”を回避。

授業は1コマ
30分。短い時
間で、集中力を
取り戻そう。

クラスの人気は
半分。担任の先
生とたっぷりコ
ミュニケーショ
ンがとれます。

中休みの代わりに、毎日1コマ、リフレッシュタイム。遊びやレクリエーション、運動などの時間にあてて、心も体もリラックス。仲間づくりにも役立ってます。

6月のロードマップ

6月第1期(6/1～6/14)
各クラス2分・分散登校
午前授業

6月第2期(6/15～6/30)
各クラス一斉・毎日登校
午前授業

- ねらい
 - ・児童の心身の観察・ケア
 - ・担任との関係構築
 - ・学習の定着具合の把握
 - ・生活リズムの取り戻し
- 具体的な取組
 - ・児童の心の様子を探るアンケート等
 - ・30分授業による学習リズムの定着
 - ・コロナ関係に起因するいじめ、偏見への指導
 - ・衛生スタンダードの指導
(手洗い、マスク、水道の使い方等)
 - ・教育相談の実施

- ねらい
 - ・学級づくり
 - ・未履修から新学年の学習へ
 - ・保護者との信頼関係の構築
- 具体的な取組
 - ・一つのクラスのスタートを意識させるような取組
(学級目標づくり、係活動、当番活動、クラスレク等)
 - ・衛生スタンダードの指導
(手洗い、マスク、水道の使い方等)
 - ・各教科・領域の指導
(学習の定着・3密回避等を鑑み、カリキュラムを再編成)
 - ・個人面談の実施

第3期へ

段階的に再開後のねらいを設定し、子どもたちが安心できる教育活動を目指します。

学習の不安解消、そしてしっかりと学びへ!

☆休業中の家庭学習を生かします。

- ・せっかくだががんばった家庭学習。提出された課題には、しっかりと目を通しコメントします。学習の定着具合を把握して授業に生かしたり、復習として再度活用したりします。

☆休業中に予定していた学習も、しっかりと教えます。

- ・前の学年で学習できなかったところから授業をスタート。学習の空白部分を作りません。

☆学習計画を工夫して、学習内容の精選、効率化を図ります。

- ・期間が短くても“詰め込み”にならないように、単元を入れ替えたり、とくに大切な学習に絞り込んだり、時には教科を組み合わせるなどの工夫もして、効果的に学習できるようにします。もちろん、それぞれの学習内容のバランスにも配慮します。

みんなが安全、健康に過ごせるように

馬場小の感染症対策

マスク着用、予備マスクの
持参にご協力を！

その1 基本の徹底

☆衛生スタンダードを教えます。

- ・マスクの着用、手洗い・うがい、人との距離など、生活の中で注意することを、初日の朝会（TV放送）から、また授業でも学年に応じて指導します。
- ・こまめに声を掛け、手洗い・うがいを励行します。
- ・手洗いや“3密”について教材を作成。指導で共有したり掲示を工夫したりして、徹底を図ります。

☆人との距離を意識させます。

- ・流し場やトイレは、使い方を指導するだけでなく、テープやイラストで並ぶ位置を示し、間隔をとるよう工夫します。
- ・廊下にもテープで、教室移動時の列を整えます。

その2 衛生的な環境作り

☆校内の換気と消毒に努めます。

- ・教室、廊下の窓は、原則開放。エアコン使用時も窓を少し開け、換気に注意します。
- ・放課後、教職員で教室の机やドアノブ、階段の手すりなど子どもの触れやすい場所を消毒します。

☆保健室は空間を仕切って感染を防ぎます。

- ・けが人、発熱者、その他体調不良者と症状に応じて、室内を仕切って対応します。
- ・状態によっては保健相談室も使用し、安全を図ります。

その3 授業での感染症対策

☆教室の座席は1つおきに座ります。

- ・登校したら、1つおきで決められた座席へ。ほかの子の席には座りません。
- ・常に黒板の方に向かって座ります。発表や発言は、前に向かって。グループ活動や周囲の児童との話し合いは行いません。

☆教科によって活動を工夫します。

- ・音楽では、歌唱時はマスク着用で一方向に向かって。共有楽器の使用はせず、個人のリコーダーも指使いの練習のみに。
- ・体育は、接触を伴う運動は避けます。運動時は、安全確保のためマスクを下ろしますが、十分距離を取って活動します。
- ・教材の共有は、しません。友達同士の貸し借りも禁止。調理実習も控えます。

笑顔あふれる学校にするために

心のケアといじめ対策

コロナいじめを防ぎます

- ・再開後、すぐに校長講話、児童指導専任から、そして学級担任から…と、コロナウイルスを通したいじめやかからかい、偏見などについて様々な立場から指導します。

いけないことをはっきりと伝えます

- ・感染症に関わって望ましい行動と、してはいけない行動を、低学年でもわかるよう、視覚教材を使って具体的に伝えます。そして、それが実現できるようしっかりと見守っていきます。

道徳を通して振り返ります

- ・コロナをきっかけにした差別やいじめに気付かせる教材を作成。「普段の生活の中でいじめにつながる言動をしていないかな？」道徳の授業を通して、振り返ります。

コロナウイルスについて学習します

- ・偏見をなくすには、まず正しい理解から。コロナウイルスについて、学年の発達段階に応じた指導で理解を図ります。

不安な気持ちを受け止めて

- ・長い休業で不安を抱えた児童もいるはずですが、学年に応じた形で、複数回アンケートを行います。子どもたちの思いを把握し、ケアに努めます。

保護者の皆様と連携して

- ・早く保護者の皆様と顔の見える関係を築きたいと考えています。面談を待たずとも、ご心配なことがあれば、いつでもご相談ください。